

あか ば すえ きち  
ピエゾグラフによる **赤羽末吉**  
「スーホの白い馬」展



赤羽末吉「スーホの白い馬」(大塚勇三・再話 福音館書店)より部分 1967年

2023年7月15日(土)～8月22日(火)

午前9時半～午後5時(但し入館は午後4時半まで)

休館日:水曜日(但し 祝日の場合はその翌日)

入館料:一般 500円・高大生 300円・小中生 250円

※身体障がい者手帳等をお持ちの方は半額

※県内の小中学生はココロカード提示で無料

後援:朝日新聞社豊岡支局・神戸新聞社・産経新聞社神戸総局・毎日新聞豊岡支局・

読売新聞豊岡支局・新日本海新聞社・一般財団法人 兵庫県学校厚生会・

FMジャングル76.4MHz・但東シルクロード観光協会

協力:ちひろ美術館・赤羽家・福音館書店・株式会社 平凡社

スーホに  
小学2・3  
年生は必見!!  
出会える夏!!



豊岡市立 日本・モンゴル民族博物館



# ピエゾグラフによる赤羽末吉 「スーホの白い馬」展



「スーホの白い馬」あらすじ

大事に育てた白い馬で一等賞になったスーホ。  
でも王様は褒美の約束を守らず、  
白い馬は殺されてしまう。  
スーホは馬の骨と皮で作った楽器を奏で、  
大好きだった馬を偲ぶ。

『赤羽末吉 絵本への一本道』 平凡社刊より

私は  
壮大なロマンの  
あるものを、  
子どもたちに  
みせたいのである。

赤羽末吉  
『私の絵本ろん』より



赤羽末吉『スーホの白い馬』(大塚勇三・再話 福音館書店)より部分 1967年

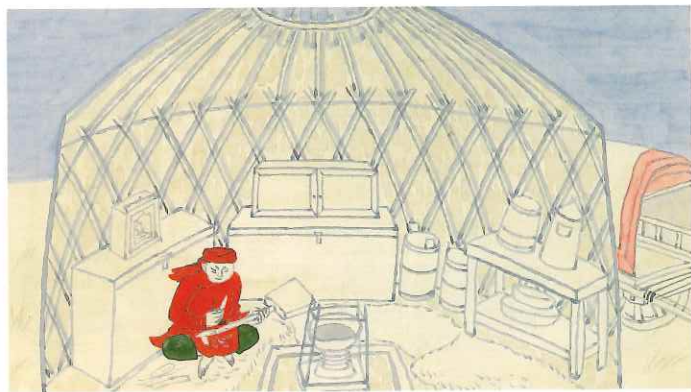
「かさじぞう」をはじめ、今も読み継がれる多くの絵本を描いた赤羽末吉(1910-1990)は、遅咲きの50歳で絵本画家としてデビューを果します。22歳の時に満州(現・中国東北部)へ渡ると、仕事の傍ら土俗人形の蒐集や影絵人形芝居を研究し、日本画家としても活躍します。それと同時に満州画壇における気鋭の論客でもありました。

1943年、取材旅行で訪れた内蒙古(現・中国内モンゴル自治区)の壮大な風景に感動した赤羽は、そこで目にしたものを大量の写真やスケッチに収め、戦後、荷物に忍ばせて日本へと持ち帰ります。これらの資料をもとに描かれた「スーホの白い馬」は、小学2年生の国語の教科書にも掲載され、絵本として出版されてから半世紀がたった今もなお、日本中の子どもたちに読み継がれています。

本展では絵本「スーホの白い馬」の全場面を、ちひろ美術館、赤羽家の協力のもと、原画作品を高精度に再現したピエゾグラフで紹介します。雄大なモンゴルの草原へ想いを馳せていただければ幸いです。

\*ピエゾグラフ:作品の色合いや風合いをデジタル情報として保存し、最新技術による耐光性のある微小インクドットで精巧に再現した作品。

セイコーエプソン(株)の登録商標



赤羽末吉『スーホの白い馬』(大塚勇三・再話 福音館書店)より部分 1967年

## オープニングイベント

「スーホの白い馬」  
馬頭琴の演奏会 & 馬頭琴体験会  
～モンゴル草原に想いを馳せて～

2023年7月15日(土) 午後1時半～(入館料が必要)

●定員30名

●締め切りは7月13日(木)

馬頭琴:福井 則之

\*馬頭琴体験・モンゴル衣装の試着希望の方は随時受け付け中